

# 横山内科 クリニック 院内新聞

第33号  
平成27年  
8月

平成二十七年八月一日、第四十一回患者講習会が行われました。今回は、ご自身が1型糖尿病である、南昌江内科クリニック 南昌江先生をお招きし、1型糖尿病と付き合うコツ、インスリンポンプ療法を行ってみて」について大変わかりやすくお話を頂きました。

## 1型糖尿病とは？

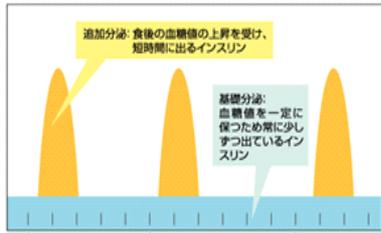


1型糖尿病は、生活習慣とは関係なく血糖を下げるインスリンが十分に分泌されなくなるために血糖値が高くなる病気です。足りないインス

リンを注射で補充する治療が基本です。この治療がうまく行われれば、今の時代では健康な人とまったく同じ生活を送ることが可能です。

## インスリン治療

インスリンには、①持効型、②



超速効型、③混合型の製剤があります。健康人のように基礎分泌と追加分泌をこれらのインスリン注射で作ります。インスリンは

て使い分けれます。

## 頻回インスリン療法

一日四〜五回のインスリン注射による治療です。1型糖尿病では、インスリンの効果、切れる時間帯がないようにすることが重要なので、基礎分泌を補うために持効型インスリンを一日一〜二回注射します。追加分泌を補う超速効型インスリンは、食事で上がる血糖を抑えるために食直前に打つものです。食べる物や量によってそのインスリン量が決まります。

## インスリンポンプ療法

皮下にやわらかい針(カニューレ)を留置し、携帯型注入ポンプで持続的にインスリンを注入する方法です。超速効型インスリンのみを使います。針の交換は二〜四日おきに行いますので、針刺しの回数は頻回法に



かな生理的変動を持効型インスリンで作るのは不可能ですが、ポンプではプログラミングが可能です。また、追加分泌の注入時間を設定することもできます。

さらに、リアルタイムで血糖値を測りながらポンプの動きへ反映される機種SAPも昨年末から日本で使用が可能になりました。しかしこの使用は、保険上、糖尿病専門医が二名以上常勤している施設にまだ限られています。



よるインスリン注射よりはるかに少なくなります。基礎分泌の細

ます。血糖値の増減の流れを直ぐに確認でき、その後の対処に役立ちます。低血糖へ向かっていく時にアラームを鳴らす設定もでき、無自覚性低血糖がある方へはオススメしたい機能です。また、約一か月間のデータをパソコンから印刷できるので、患者様と医療従事者との情報の共有、振り返りに役立ちます。

## インスリンポンプのメリット

- ①基礎インスリンを時間や生活に合わせて細かく設定できる。
- ②インスリンの残存量や食べる物の糖質量から追加インスリン量の計算が可能。また、注入時間の設定ができる。
- ③注射回数を減らすことができる。
- ④人目を気にせずインスリン注入が可能である。

## インスリンポンプのデメリット

- ①基礎インスリン量を設定するために頻回に血糖測定が必要。
- ②追加インスリン量を決定するために糖質量計算の知識が必要。
- ③針の交換が少し煩雑。
- ④チューブが閉塞すると高血糖の危険があるため、最低一日四回は血糖測定が必要。
- ⑤医療費が高額になる。

これ以外に自己血糖測定器のセンサー(試験紙)が必要です。 例)血糖自己測定器加算(120回以上) →1500点(負担4500円)	持続血糖測定器加算 1320~3230点 (センサーの償数による)
ポンプ加算 2500点	注2 CSI ポンプ使用 3230点
指導管理料 810点 インスリン療法 ⇒2430円	指導管理料 1230点 ポンプ ⇒11190円
	指導管理料 1230点 S A P ⇒17340~23280円

## 南先生と1型糖尿病

南先生は十四歳で1型糖尿病を発症、これまで三十八年間病気と向き合ってきた。病気をもちながら生きてくというのは物凄く大変なことです。人の何倍もの苦労や努

力が必要です。しかし、この病気のせいではできなかったことはひとつもありません。病気と上手に向き合い楽しい人生を歩むには、病気を受け入れ、自分と病気を知り、目標を持つことです。」とお話ししてくださいました。

先生は、1型糖尿病であるご自身への挑戦として、二〇〇二年からフルマラソンに取り組み、今年の東京マラソンで十八回目の完走を果たしました。初めて完走した時は、自分にもこんなことができるんだ」という感動と、関わって下さった方々への感謝の気持ちで、人生で最も心に残った「瞬間であった」とのことです。SAPを使用している方は、常時血糖値を確認し、インスリン調整を行うことで、低血糖なく完走することができているそうです。

## 院長より

人生とは、時の経過とは、実に早いもので私が二十八歳の時に二十四歳の南先生が新人として入局したのがもう三十年弱も前になってしまいました。1型糖尿病でありながら、肝炎も患い入院して実家に戻ったので、東京生活はハードだったかと懸念していました。しかし、何とも逞しく、患者を励ます実践を果敢に行っている姿に胸が熱くなります。皆様も糖尿病を克服して下さいね！応援しております。

## 編集後記

驚くほどの猛暑が去り、ようやく涼しくなりました。外で体を動かすのも気持ち良い季節ですね。暑さは収まりましたが、運動の際は十分に水分を摂りましょう。

第四十二回患者講習会は、平成二十七年十一月頃の開催予定です。皆様のご参加お待ちしております。